

---

● ★ ●

【黒原】

杉本 正明 さん (78才)

---

● ★ ●

昭和20年の6月の20日過ぎの何日かはっきり覚えていませんが、麦刈りの時期でした。

私の家は被弾を免れたが、東隣の乾家、南西の乾家、西隣の杉本家の3軒に焼夷弾が落ちました。

その時私は家にいませんでした。

父母も田んぼへ出てました。

東隣の乾さん宅は井戸端に落ち、弟さんが布団を被せて消したそうです。

南西の乾さん宅は藁葺きだったので焼夷弾が屋根に止まり、屋根だけ丸焼けになりました。

西隣の杉本さん宅も土間に落ちたと聞いています。

被弾した3軒乾肇さん、乾数匡さん、杉本卓さんは出征されていたので、家族や近所の人が手伝って消火されました。

私の家の東隣から対馬江にかけての田んぼにも白昼何十発もの焼夷弾が麦畑、菜種畑に落ち、パチパチと燃え地面に突き刺さって火を噴いているものもありました。

空中で分解してばらけ花火のように見える六角筒の焼夷弾です。

父は、24日に火事見舞いに行ったと日記に書いていますから、6月22、3日頃だったのでしょう。

黒原の戸数は45軒ほどで、なぜこんなところへ焼夷弾などを落とされたのか、と思いましたが、大阪市内で使った残りを落としていったのではないかと近所の人が言っていました。

当時、私らの年代の者は戦争に絶対勝つ、と信じていました。

誰も負けるとは思っていなかったと思います。

軍国主義教育は徹底していたんですね。

しかし、事情に詳しい人は、これはもう駄目かもしれない、と考えていたのではないのでしょうか。